

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：32710

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18197

研究課題名(和文) アメリカにおける公教育の確立と「女性性」の相関-英仏との思想的交流の文脈から

研究課題名(英文) Correlations Between the Establishment of Public Education in the United States and Femininity: The context of ideological interactions with the U.K. and France

研究代表者

鈴木 周太郎 (Suzuki, Shutaro)

鶴見大学・文学部・准教授

研究者番号：30635735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：近代的な教育システムが19世紀初頭に環大西洋圏で確立するなかで新たな女性性が定着していった過程を明らかにすることを目的とした本研究では、アメリカの女子学校における教育理念の変遷を検討し、アメリカの女子教育に対する英国の教育の影響について考察した。特にエマ・ウィラードらによる女子学校について建国期の学校と比較し、より家庭との繋がりを強調し良き母を育成するための教育という側面が強いことを明らかにした。また英国のランカスター式教育のアメリカへの受容について検討し、19世紀アメリカにおける女子教育の普及に対する英国の教授法の影響が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義として(1)公教育システムが確立される前のアメリカにおける教育をめぐる議論の重要性を示すこと、(2)教育をめぐる議論のなかで「女性性」が確立・変化していく過程を明らかにすることでジェンダー史研究全体への貢献が期待できること、(3)日本の西洋史研究でも盛んに取り入れられている「環大西洋史」という研究領域に新たな成果を組み込み、教育史やジェンダー史におけるグローバル・ヒストリーを提示することの三点が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify how a new femininity took root during the establishment of modern education systems at the beginning of the 19th century in the transatlantic area by examining changes in educational ideas in girls' schools in the U.S. and considering the influence of English education on girls' education in the U.S. In particular, the girls' schools run by Emma Willard and others are compared with schools from the period of the nation's founding to clarify that family connections were more strongly emphasized as was the role of education in training to be a good mother. Also, the reception of English Lancasterian education in the U.S. is examined, and the effects of English methods of instruction on the spread of female education in the United States in the 19th century are elucidated.

研究分野：ジェンダー史

キーワード：ジェンダー 教育史 女子教育 アトランティック・ヒストリー 英米関係史 共和国の母 真の女性らしさ 女性の権利

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は一貫して初期アメリカの女子教育について研究してきた。「アメリカ建国期における近代女子教育の誕生-環大西洋史の視点から」(若手研究(B)、平成 25 年-27 年)において、建国期アメリカにおける女子教育論が英国から強い影響を受けたものであることを明らかにした。例えば論文“*For the Progress of Knowledge and Virtue : The Acceptance of Mary Wollstonecraft in America in the 1790s*”(『鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編』第53号、2016年)では英国の思想家メアリ・ウルストンクラフトに注目し、女子教育論についての英米比較をおこなった。そして、1800 年前後から女子教育に求められる内容がより「家庭性」と結びついたものになったことと、公教育論争という大きな枠組みのなかに女子教育を位置づけることの重要性を痛感した。そのため、これまで研究対象としていた 1790 年代より後の時代の女子教育について、公教育システムの確立と関連づけつつ研究をおこなうこととした。

2. 研究の目的

近代的な教育システムが 19 世紀初頭に環大西洋圏で確立するなかで新たな女性性が定着していった過程を明らかにすることを目的とした本研究では、アメリカの女子学校における教育理念の変遷を検討し、アメリカの女子教育に対する英国の教育の影響について考察した。特に明らかにしたかったことは以下の 3 点である。(1) 公教育システムが確立される前のアメリカにおける教育をめぐる議論の重要性を示すこと。そのためにニューヨークの教育者エマ・ウィラードに着目した。彼女の創設した女子学校について建国期の学校と比較し、より家庭との繋がりを強調し良き母を育成するための教育という側面が強いことを明らかにする。(2) 教育をめぐる議論のなかで「女性性」が確立・変化していく過程を明らかにすることでジェンダー史研究全体への貢献が期待できること。そのために前述のウィーラードに加えてキャサリン・ピーチャーの活動にも着目し、「家庭の中での妻や母」の役割の延長としての女性教師という側面について検討する。(3) 日本の西洋史研究でも盛んに取り入れられている「環大西洋史」という研究領域に新たな成果を組み込み、教育史やジェンダー史におけるグローバル・ヒストリーを提示すること。英国のランカスター式教育のアメリカへの受容について検討し、19 世紀アメリカにおける女子教育の普及に対する英国の教授法の影響を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、公教育というシステムがアメリカ各地で未整備な状態であり公的な財源を教育にあてることに反論も多く、特にそのなかに女子を組みこむことに抵抗が多かった初期アメリカに着目することで、「前史」として捉えられてきた南北戦争前のアメリカの教育史およびジェンダー史における重要性を明らかにする。19 世紀アメリカ白人中産階級女性に主流であった女性像としての「家庭性」の強調と、婦人参政権運動を中心とする女性の権利運動は、従来交差せず反発しあうものと理解されてきた。しかし「女性性」を家庭と結びつける議論と「女性の権利」論が混在した建国期の女性像を出発点として見ると、「家庭性」と婦人参政権運動はアメリカ女性像の両側面と見ることにもできる。本研究は様々な女性性や女性観が建国期に共存しつつ、それが 19 世紀に入り教育の分野で変化していったことを明らかにする。

現地における教育機関及び教育行政に関する資料を丹念に検討することで、「2.」で述べた研究目的を達成することに努めた。各年度に、下記の通り資料収集をおこなった。

2017 年 8 月 米国マサチューセッツ州 American Antiquarian Society 等
2018 年 3 月 米国ニューヨーク州 New-York Historical Society 等
8 月 英国ロンドン British Library 等
2019 年 3 月 豪州シドニーの State Library of New South Wales

4. 研究成果

3年間の期間中に研究代表者は、アメリカの女子教育を近代教育の誕生と発展の過程という環大西洋規模で起こった事象のなかに位置づける試みをおこなった。具体的に取り組んだこととして以下の三つがあげられる。

(1) 初期アメリカにおける公教育論争のジェンダー史的視角による再検討

アメリカ合衆国の建国期に盛んにおこなわれた公教育の導入を巡る議論について検討しつつ、それ以降のアメリカにおいて女子教育がどのように位置づけられていったのかについて考察した。教育を受ける生徒の範囲はどこまでなのか、そこに女性も含まれるのか、彼ら彼女らは何を学ぶべきなのか、生徒たちは将来どのような人物となりどのような仕事につくと想定されるのか等について調査した。そして、19世紀後半にかけての女性性の変化と高まる女性運動との関係の考察という、今後の研究課題を見つけることができた。

研究成果として、以下のものがある。建国期から19世紀前半にかけてのアメリカ女子教育について、女性性と「女性の権利」論との関係から明らかにしたという点で意義のある成果であった。

鈴木周太郎『アメリカ女子教育の黎明期 共和国と家庭のあいだで』神奈川新聞社、2018年。

(2) 教育についての議論をめぐる大西洋を越えた思想の交流についての考察

ウルストンクラフトの『女性の権利の擁護』やルソーの『エミール』に代表されるヨーロッパの教育論のアメリカにおける受容を見ることによって、ヨーロッパからアメリカに教育や女性についての思想が流入していった過程を検討した。政治思想史研究においては、スコットランド啓蒙のような思想が建国期の政治に大きな影響を及ぼしたことは、長い間議論されてきた。本研究ではこのようなヨーロッパとの思想の交流のなかに、教育や女性をめぐる議論を位置づけることを試みた。そのためにアメリカにおけるヨーロッパの著作の輸入業者や出版業者についての資料も検討した。また、イギリスのランカスター方式と呼ばれる教育システムが、アメリカの公教育の整備のなかで導入されていった経緯についても検討した。

研究成果として、以下のものがある。特に前者についてはランカスター方式のモニトリアル・システムがアメリカのみならず、日本やオーストラリアにまで影響を及ぼしたものであることを明らかにできたことは、当初予期していない知見であったため大変意義のある成果であった。

Suzuki, Shutaro, "The Vestiges of British Education Systems in the United States and Japan in the 19th Century: With a Focus on the Lancasterian System" 『鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編』第56号、2019年。

Suzuki, Shutaro, "Girls in the Age of Industrialization: Female Education and the Lancasterian System of Instruction" 『鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編』第57号、2020年。

(3) 初期アメリカで実践された女子教育についての検討

教育が実践された現場としての学校に注目し、カリキュラム、教科書、教員や生徒の発言や著述についての研究をおこなった。特に女子学校に注目し、1790年代のフィラデルフィアのヤン

グ・レディズ・アカデミー、イギリス出身の作家・教育者であるスザンナ・ローソンが1800年代にボストンで開設した女子アカデミー、エマ・ウィラードが1820年代に開設したトロイ女子セミナリーを主な対象とした。同時代の男子学校や公教育についての議論と比較し、女子教育において「女性性」がより重視されていく過程を読み解いた。また、そのような女子教育がランカスター方式の流入などの新たな潮流の中で、19世紀前半にどのように変化したのかについても検討した。

研究成果として、以下のものがある。

Suzuki, Shutaro, “ “ You Will Consider Home an Ample Theatre for the Exercise of Your Highest Possibilities ” : The Tradition of Domesticity in Female Education in the United States, from the 18th to 19th Century ” 『鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編』第55号、2018年.

なお、(1) であげた単著『アメリカ女子教育の黎明期』には、(3) についての研究成果も含まれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 鈴木周太郎	4. 巻 57
2. 論文標題 Girls in the Age of Industrialization: Female Education and the Lancasterian System of Instruction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shutaro Suzuki	4. 巻 56
2. 論文標題 The Vestiges of British Education Systems in the United States and Japan in the 19th Century: With a Focus on the Lancastrian System	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24791/00000476	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木周太郎	4. 巻 55
2. 論文標題 'You Will Consider Home an Ample Theatre for the Exercise of Your Highest Possibilities': The Tradition of Domesticity in Female Education in the United States, from the 18th to 19th Century	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鶴見大学紀要 第2部 外国語・外国文学編	6. 最初と最後の頁 55-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24791/00000167	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 鈴木周太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川新聞社	5. 総ページ数 99
3. 書名 アメリカ女子教育の黎明期 共和国と家庭のあいだで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----